

さぬき南小学校区子ども会育成連絡協議会

1 さぬき南小学校区の概要

さぬき南小学校は市学校再編計画により、さぬき市立富田小学校とさぬき市立松尾小学校が統合され、旧大川町を校区とする小学校とし平成27年度に新しくスタートしました。

本校区はさぬき市の南東部に位置し、北は柴谷・相地峠で津田地区、東は田面峠で大内地区、南は日下峠・壇特山で白鳥地区、西は寒川地区に接する、山間の田園地帯にあります。校区内には、四国最大の富田茶臼山古墳、みろく自然公園があり、文化、スポーツの拠点ともなっています。

また、県道10号線には、みろく自然公園口に「道の駅」も整備され、道路事情の改善も進んできました。史跡と豊かな自然のあふれる校区として、今後の一層の発展を願い、学校と地域が一体となって各種教育活動が展開されている地域です。



2 さぬき南小学校区子ども会育成連絡協議会について

平成30年度は南川、東町、中央通、時友通、宮町、谷町・了智坊 下り松古枝、産宮通、田辺町、筒野、筒野通、大角、栄町、大井、平碓、大井団地、東友、西友・蔵、中央、北友の21単位子ども会構成されており、4月に総会、夏休みのプール開放、年間に2回程度のふれあい事業を計画、実施しています。

○ 単位子ども会数・・・・・・ 単位子ども会

○ 子ども会員数・・・・・・ 492名

（ 小学生251名 幼児2名 育成者21名 ）

小学生の加入率 96.9%

3 ふれあい事業等校区子ども会活動紹介 (H27～H30年度)

○「防災ワンデイキャンプ」

H27/11/14 於:さぬき南小

H28/10/29 於:南川少年自然の家

地域の「さぬき南小学校応援隊」の方々やPTAと共催で、地震による災害時の備えについて体験しながら学ぶ「防災ワンデイキャンプ」を行いました。



〈自衛隊の方から地震について学ぶ〉



〈煙体験〉



〈飯盒炊さん〉



〈起震車体験〉



〈はしご車体験〉



○「マジックショー」

H28/1/14 於:さぬき南小

徳島文理大学の奇術愛好会の学生さんを講師に迎えて、「マジックショー」を開きました。子どもたちは、マジックを見破ろうと興味深く見たり、ステージ上でマジックを体験したりして楽しんでいました。



〈マジックの種明かし〉



〈子どものゲスト出演〉



〈参加型の楽しいマジック〉

○「うどん・チーズ作り」

H28/6/24 於:さぬき南小

香川大学農学部ボランティアサークル(ASUS)の学生さんを講師に迎えて、「うどん・チーズ作り」を行いました。子どもたちは、学生さんの用意した音楽によってノリノリでうどんの生地を足でふみふみ。楽しくおいしい手作りのうどん・チーズ作り体験となりました。



〈上級生が下級生をリードして生地づくり〉 〈音楽によって足踏み〉 〈おいしいうどんの完成〉

○「親子木工教室」

H29/7/23 於:さぬき南小

建築組合の方に協力していただき、「親子木工教室」を開きました。友達や親子で協力して貯金箱や本棚などを作りました。できた作品を夏休みの工作として提出した子どももいました。



〈親子でトントン〉



〈建築組合の方のサポート〉 〈オリジナルの作品完成〉



○「さぬきっこふえすていばる！」

H30/7/15 於：津田公民館ほか

隔年で行われる市子連行事「さぬきっこふえすていばる！」にさぬき南小学校区子ども会も参加し、「柔軟選手権」のブースを担当しました。「かかってこい！南っ子に挑戦」と題し、長座体前屈の記録を参加者に楽しみながら競ってもらいました。また、地元のボランティア「大川町のドラえもん」さんのマジックショー、子どもたちの作ったバルーンアートのプレゼントも企画し、市内小学校区の子ども会員さんにも楽しんでもらえて大盛況でした。



〈ブース・イベントの宣伝〉



〈ドラえもんさんのマジックショー〉



〈受付・説明・プレゼント作りなど、子どもが役割をもって活動に参加〉

○「プール開放・救命救急講習」

夏休みには、子どもの泳力向上と、水に親しむ時間をつくることを目的に「プール開放」を行っています。

また、PTAと共催して事前に「救命救急講習」を行うことで、プール当番の育成者だけでなく、校区の保護者・子どもに広く参加を呼び掛け、水の事故への備えをしています。

日本赤十字社や消防署に講師を依頼して、AEDの使い方を教わっています。

H27/7/15 於：さぬき南小
H28/7/14 於：さぬき南小
H29/7/14 於：さぬき南小
※ H30年度は中止



※ 平成30年度は、日本赤十字社の方が大雨被災地の復興支援のため来られなくなり、救命救急講習は中止。また、酷暑によりプール開放も中止となりました。

4 おわりに

子ども会員の減少、育成者の多忙感など、校区子ども会活動における課題が残る中、子どもを応援してくださる地域、学校、PTA、各種機関、各単位子ども会育成会長の協力のおかげで、充実した内容の校区子ども会活動が行えています。

地域の協力や大学の学生サークルなども活用することで、さまざまな活動が展開でき、子どもの体験を豊かなものにできています。

統合から4年間を振り返ると、校区子ども会では、ふれあい事業を通して、子どもと子ども、子どもと大人、大人と大人が関わり、共に考え、協働する中で縦と横、地域社会との新しい関係を築くことができています。

ふれあい事業を企画・準備するにあたり、役員会や打ち合わせにかなりの時間を要することが大きな課題の1つとなっています。また、世帯数が減り、子ども会員の減少によって活動しにくくなっている単位子ども会もあります。

今後も地域、PTA等と連携・協力して持続可能な校区子ども会活動を行っていく必要があります。